
NEWSLETTER

一般社団法人日本保健物理学会

No. 62 November, 2011

目次

企画案内	2
福島第一発電所事故対応シンポジウムⅢ -課題・論点の総括と今後の展望-	2
理事会報告	2
平成 23 年度一般社団法人日本保健物理学会 第 1 回理事会議事録	2
企画委員会報告	4
平成 23 年度 第 2 回 企画委員会 議事録	4
「福島第一発電所事故対応シンポジウムⅠ-原子力防災対策とその基準-」印象記	5
編集委員会報告	6
平成 23 年度 第 2 回 編集委員会 議事録	6
広報担当からの報告	7
「暮らしの放射線Q&A」の活動について	7
大学等教員協議会	8
活動報告	8
若手研究会	8
活動報告	8
学友会	11
活動報告	11
専門研究会報告	11
今年度の専門研究会について	11
放射線安全パラダイム検討のための基盤整備専門研究会	12
学会掲示板	12
福島第一発電所事故対応シンポジウムⅡ-公衆の被ばくに焦点を当てて-に参加して	12
インターネットグループの活動	13

企画案内

福島第一発電所事故対応シンポジウムⅢ 課題・論点の総括と今後の展望

開催日：平成23年12月17日(土) 10:00~17:30

場所：東京大学小柴ホール(本郷キャンパス 理学部1号館中央棟2階)
http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_00_25_j.html

主催：日本保健物理学会

共催：日本放射線安全管理学会

参加費：正会員(日本放射線安全管理学会正会員を含む)、特別会員及び準学生会員 1,000円
正学生会員 500円
名誉会員、賛助会員(各行事1団体2名まで) 無料
非会員 3,000円

事前申込：参加ご希望の方は、12月12日(月)までに、学会事務局(jhps@iips.co.jp)へメールにてお申し込みください。メールには、氏名、所属、会員種別を明記してください。受付後、確認のメールを返信いたします。なお、会場スペースの関係上、お申し込みが多数の場合、事前登録以外の方は立ち見席となりますので、ご了承ください。

プログラム：

10:00-10:10 学会長挨拶 東大・小佐古敏荘

第1部 公衆の被ばく線量評価・線量再構築(座長：東医保大・伴信彦)

10:10-10:30 公衆の被ばく線量評価の現状と課題 京大・高橋知之

10:30-10:50 SPEEDIによる拡散計算とその検証 原子力機構・永井晴康

10:50-11:10 小児甲状腺スクリーニング検査等の結果 内閣府原子力災害対策本部
堀岡伸彦

11:10-11:30 食品汚染の現状 保健医療科学院・山口一郎

11:30-12:00 質疑・討論

昼食(60分)

第2部 緊急時作業に対する線量限度(座長：放医研・酒井一夫)

13:00-13:20 基準策定ー放射線審議会の議論から 放医研・杉浦紳之

13:20-13:40 基準の運用実態と今後の課題 東電・菅井研自

13:40-14:00 質疑・討論

第3部 事故に伴う放射性廃棄物の管理(座長：原子力機構・百瀬琢磨)

14:00-14:20 廃棄物の発生・保管状況 東大・森口祐一

14:20-14:40 現存被ばく状況における廃棄物管理の枠組み 電中研・杉山大輔

14:40-15:00 質疑・討論

休憩(15分)

第4部 日本保健物理学会の対応(座長：東大・小佐古敏荘)

15:15-15:40 課題と論点の整理 電中研・服部隆利

15:40-17:30 総合討論

指定発言(1)：個人線量測定に関する課題 原子力機構・高田千恵

指定発言(2)： 若手

(東医保大 伴 信彦)

理事会報告

平成23年度一般社団法人日本保健物理学会 第1回理事会議事録

1. 日時：平成23年8月12日(金) 10:00~11:30

2. 場所：東京大学 小柴ホール

-
3. 出席者： 理事) 小佐古, 服部, 猪俣, 宮川, 山口, 細野, 百瀬, 伴, 酒井, 菅井, 林, 谷口
 監事) 村山, ニツ川
 事務局) 副島
4. 配布資料
- 1-1 平成 23 年度予算の執行状況
 - 1-2 登記申請書
 - 1-3 一般社団法人日本保健物理学会の定款・規程類の体系
 - 1-4 一般社団法人日本保健物理学会定款
 - 1-5-1 学会会員規程(案)
 - 1-5-2 学会規程(案)
 - 1-5-3 代表理事候補、理事候補及び監事候補の選出並びに選挙管理委員会の運営に関する規程(案)
 - 1-5-4 学会倫理規程(案)
 - 1-6-1 委員会等運営に関する規則(案)
 - 1-6-2 総務に関する規則 (案)
 - 1-6-3 会計に関する規則 (案)
5. 議事概要
- (1) 平成 23 年度予算の執行状況
 資料 1-1 について、事務局から説明がなされ、了承された。
 - (2) 一般社団法人への登記について
 資料 1-2 に基づき、事務局から一般社団法人設立の申請書について説明があり、本日午後に東京法務局へ提出すること、またその申請内容について了承された。
 - (3) 定款・規程類の体系
 資料 1-3 に基づき、事務局から一般社団法人化に伴う新たな定款・規程類の体系について説明があり、定款および規程は社員総会で定めること、また規則等については理事会で定めること等が確認された。
 - (4) 新定款について
 資料 1-4 に基づき、条文の内容を確認し、誤字等必要な修正作業へて了承された。また、第 23 条 2 項により、小佐古理事は会長（代表理事）に、服部理事は副会長にそれぞれ留任、また猪俣理事および百瀬理事が常務理事に就任することが了承された。
 - (5) 新規程について
 資料 1-5-1、資料 1-5-2、資料 1-5-3 および資料 1-5-4 に基づき、条文の内容を確認し、誤字等必要な修正作業へて了承された。また規程第 6 条により、会長の命により参与は留任とし、その旨了承された。
 - (6) 新規則について
 資料 1-6-1、資料 1-6-2 および資料 1-6-3 に基づき、規則等については早急に策定することとし、それまでは現状の規則等を準用することが了承された。

以下、メーリング理事会

- (7) インターネット関連の運営について【メーリング理事会 H23-6】
 谷口理事より新サーバーへの移転、ホームページのリニューアル、メーリングリストに代わる新たな会員間の情報交換等について提案がなされたが、一般社団法人化を機に関係事業の体系化が必要との意見があり、引き続き関係者の間で調整することで了承された。
 (8月15日付)。
- (8) 国際シンポジウムへの後援依頼について【メーリング理事会 H23-7】
 猪俣理事より（独）放射線医学総合研究所および弘前大学主催の「自然放射線被ばくと低線量放射線疫学研究に関する国際シンポジウム」への後援について提案され、了承された(8月9日付)。
- (9) 入退会者の承認について【メーリング理事会 H23-8】
 以下の入退会について、承認された(8月11日付)。
 入会 (正会員) 高橋 直樹, 林 圭佐, 村上 勲, 大川 康寿
 (準学生会員) 佐藤 淳, 青塚 潤
 退会 (正会員) 津久井 豊, 杉山 亘, 須田 博文
 (団体会員) 東電環境エンジニアリング株式会社

(原技協 猪俣 一朗)

企画委員会報告

平成23年度 第2回 企画委員会 議事録

1. 日 時： 平成23年9月7日(水) 13:30~17:00
2. 場 所： 原子力研究開発機構東京事務所第3会議室
3. 出席者： 百瀬(委員長), 伴(副委員長), 谷口, 林, 飯塚, 川浦, 南, 山崎, 細田, 平尾, 中田(幹事)
4. 議 題
 - (1) 平成23年度第1回議事録確認
 - (2) 広報報告
 - (3) 企画行事について
 - (4) 研究会活動報告
 - (5) インターネット Gr.報告
 - (6) 若手研報告
 - (7) その他
5. 配布資料
 - 2-1 第1回企画委員会 議事録(案)
 - 2-2-1 保健物理学会情報発信等活動の今後について
 - 2-2-2 HP「暮らしの放射線 Q&A」の今後の運営について 【提案】
 - 2-3-1 保健物理学会シンポジウム
「日本保健物理学会福島第一発電所事故対応シンポジウムⅠ-原子力防災対策とその基準-」会計報告
 - 2-3-2 保健物理学会シンポジウム
「日本保健物理学会福島第一発電所事故対応シンポジウムⅡ-公衆の被ばくに焦点を当てて-」会計報告
 - 2-3-3 合同研究会の協賛について
 - 2-3-4 シンポジウム企画案
 - 2-4-1 放射線安全の新しいパラダイムへの進化に向けて
 - 2-4-2 日本保健物理学会第44回研究発表会「ラドンの防護基準に関する専門研究会」セッション
 - 2-4-3 専門研究会再募集について
 - 2-5 インターネットグループ(IG)の活動について
 - 2-6 若手研報告
6. 参考資料
 - 2-3-1 企画行事に関する議事録 (6/10 企画委員会)
 - 2-3-2 企画行事一覧
7. 議 事
 - (1) 第1回企画委員会議事録確認
資料2-1に基づき、前回会合の議事録を確認し、了承された。
 - (2) 広報報告
資料2-2-1に基づき、情報発信に係る状況、問題点今後の予定等について広報担当理事から説明があった。検討の結果、資料2-2-1を修正後、企画委員会から理事会に提出することが決定された。修正箇所は、広報は学会の顔として重要であるため、対応する人の位置づけを明確にすること、体制の強化などについてである。
資料2-2-2に基づき、暮らしの放射線 Q&A の運営について、説明があった。委員からは若手が中心に対応していることについて、負担が大きくなりすぎないようにフォローする必要がある旨の意見があった。
 - (3) 企画行事について
資料2-3-1~1-3-2に基づき、6月16日及び8月12日に開催した福島第一発電所事故対応シンポジウムの会計報告が確認された。また、資料2-3-3に基づき、10月9日に名古屋で開催される愛知県放射線技師会等による企画行事について説明があった。本件は、協賛の依頼のため、理事会に諮ることとなった。
資料2-3-4に基づき、今年度の企画行事について検討した。この結果、福島シンポジウムの継続で事故初期のヨウ素に注目して線量評価の観点から企画することとなった。
 - (4) 専門研究会活動報告
各専門研究会担当委員から資料2-4-1~1-4-3に基づき以下の報告があった。

- ・放射線安全の新しいパラダイム基盤整備専門研究会及びラドンの防護基準に関する専門研究会からは、次回の研究発表会においてセッションを開催する旨の報告があった。
- ・放射線教育の推進支援に関する専門研究会は、震災影響により活動が停止している旨の報告があった。
- ・専門研究会は、今年度の活動は、1件のみのため、今後も継続して募集することが、確認された。

(5) インターネットグループ報告

資料 2-5 に基づき、報告があった。Newsletter No.62 は、10 月下旬に発行予定とした。また、記事内容は、総会報告、福島シンポジウム印象記等を載せることとなった。

(6) 若手研報告

資料 2-6 に基づき、今年度の体制、今年度の活動実績及び今後のスケジュール、研究発表会のセッション企画が報告された。

(7) その他

次回の会合は、12 月 5 日（月）を予定する。

(原子力機構 中田 陽)

「福島第一発電所事故対応シンポジウム I-原子力防災対策とその基準」印象記

平成 23 年 6 月 16 日、学会主催により、東京大学理学部 1 号館小柴ホールにおいて標記のシンポジウムが開催された。このシンポジウムは福島第一発電所の事故対応に関して保健物理、放射線防護の観点で意見交換を行うことを目的として企画された。第一弾にあたる今回は 2 部構成となり、前半では原子力防災対策に関する基準に焦点をあてて、その中でも特に「屋内退避・避難」、「安定ヨウ素剤投与」、「飲食物の規制」について、後半では事故後の反応・対応について議論が行われた。当日は 130 名を超える多数の参加者に加え、報道関係者の姿も見え、今回の事故への高い関心がかがえる活発な議論が行われた。

冒頭、小佐古敏荘学会長の挨拶では、福島第一発電所の事故について、学会員を初めとする参加者に対し、保健物理、放射線安全の対応が求められると述べ、改めて事故の重大さや保物関係者の役割についての言及があった。さらに、今回のシンポジウムの企画意図として、活発な意見交換により事故実態の解明に期待したいとの発言があった。次いで行われた基調講演では、伴信彦氏(東京医療保健大学)が座長を務め、近畿大学原子力研究所杉浦紳之教授から、事故の概要と今回のシンポジウムで議題となる防災基準の運用に関して発表があった。その後、テーマ別討論という形式で、服部隆利氏(電力中央研究所)が座長を務められ、まず、大分県立看護科学大学の甲斐倫明教授から、屋内退避・避難について発表があり、その中で、屋内退避や避難の目的は短期間の防護措置であること、今回の適用について前述の目的の範囲では機能したことを述べ、その一方で、新たに設定された計画的避難区域についてはその効果について今後検証されていく必要があるとの指摘があった。また、放射線医学総合研究所の石原弘氏からは、安定ヨウ素剤の効果や服用方法に関して説明があり、安定ヨウ素剤は医師の処方や原子力災害対策本部長からの指示で服用すべきであるが、福島県外においてはそうした手続きを踏まない不適切な服用や、デマ等によるうがい薬の服用等の混乱が見られたことが報告された。放射線影響協会の稲葉次郎氏からは、今回の事故に対する防護措置として講じられた飲食物摂取制限に関して説明があった。飲食物摂取制限は、内部被ばくに関わる重要な項目であり、防護措置の中でも大きな役割を果たした旨の発言があった。その一方で、風評被害が起こったことに触れ、正しい情報を発信していたのか、基準となった実効線量 5 mSv/y という値が適切であったのか、という疑問を呈し、見直しを行うことの必要さを示した。

続いて小佐古敏荘氏(東京大学)が座長を務められ、「事故後の反応と対応-意見交換」のテーマで、今回の事故に対する保健物理学会の対応や福島県現地の反応、次世代の原子力関係分野を担う若手、学生の反応について発表が行われた。日本原子力発電株式会社の近江正氏からは、保健物理学会としての対応について、インターネットを用いた情報発信に関する報告があった。事故発生後初期において見られた掲示板サイト等における信憑性のない書き込みに対して、正しい情報発信が必要であることを感じ、専門家による Q&A 方式の情報発信を始めたことの報告があった。原子力発電環境整備機構の河田東海夫先生からは、福島県川俣町に住んでいる友人を介した現地の状況について報告があり、土壌中に堆積した放射性物質に対する地元住民の不安を代弁し、一刻も早い環境修復が必要であるとの発言があった。最後に電力中央研究所の荻野晴之氏及び東京大学の谷幸太郎氏より若手からの発言として、今回のシンポジウムでは触れなかった校庭の利用基準や内部被ばく等に関する話題提供や、保健物理を初めとする原子力関連分野を専攻している学生に対して実施したアンケート結果について発表があり、約半数の学生が将来の研究、就職に不安を抱いていることが報告された。

今回のシンポジウムでは、防災指針の基準適用が大きなテーマであり、質疑応答でもそこに焦点をあてた討論が多くなされた。特に、基準として設定した値については、専門家でも意見の食い違う場面もあり、原子力防災の難しさ

を実感した。今回のシンポジウムで議論が不十分であった議題については8月に開催される第二弾にて取り上げる予定である。今後の福島第一発電所事故を取り巻く情勢に注目しながら、第二弾での討論を心待ちにしたいと思う。



写真：シンポジウム会場の様子

(原子力機構 中村 圭佑)

編集委員会報告

平成23年度 第2回 編集委員会 議事録

1. 日時：平成23年9月1日(木) 13:30~17:00
2. 場所：電力中央研究所(東京・大手町) 第2打合室
3. 出席：山口(恭)(委員長)，三枝(幹事)，細野(担当理事)，山口(一)，石森，森泉，藤川，杉山，三上，佐藤(以上，委員)，笠原(事務局)
4. 議題
 - (1) 前回議事録の確認
 - (2) 理事会報告
 - (3) 編集委員の作業分担の確認
 - (4) 企画記事提案とJ to W 及び巻頭言に係る確認
 - (5) 一般法人化に伴う規定類変更箇所の調査について
 - (6) 各パート進捗状況の確認
 - (7) 46-3, 46-4 号編集進捗状況の確認，論文審査状況の確認
 - (8) その他
5. 配布資料
 - 2-1 平成23年度第1回編集委員会議事録(案)
 - 2-2 理事会報告概要
 - 2-3 編集委員作業分担に関する資料
 - 2-4 企画記事などの分担表，J to W 及び巻頭言のリスト
 - 2-5-1 A パート進捗状況
 - 2-5-2 福島特別記事進捗状況
 - 2-5-3 B パート進捗状況
 - 2-5-4 C パート進捗状況
 - 2-6 46-3, 46-4 号編集状況
 - 2-7 編集スケジュール
 - 2-8 その他の議題
 - 2-8-1 学会誌の構成について
 - 2-8-2 情報発信等の活動の今後について
 - 2-8-3 保物学会第44回研究発表会案内

6. 参考資料

- 1 論文査読ガイドライン(案)
- 2 H23 年度委員名簿(案)
- 3 投稿規則
- 4 投稿の手引き(20110601 改)
- 5 Instruction to Authors(20110601 改)
- 6 覚書
- 7 企画記事提案書式
- 8 形式査読のチェック項目(20110601 改)

7. 議 事

(1) 前回議事録の確認

平成 23 年度第 1 回編集委員会の議事録(案)を確認し、承認された。

(2) 理事会報告

山口委員長より、平成 23 年度第 1 回、第 2 回理事会ならびに第 51 回総会の概要報告があった。46-2 号の発行、発送状況を確認した。今後、年 4 回、期日どおり発行できるよう努めることを確認した。

(3) 編集委員の作業分担の確認

三枝幹事より、依頼記事、J to W、巻頭言の企画、校正と編集後記、及び J-STAGE に関する分担について案が示され、了承された。

(4) 企画記事提案と J to W 及び巻頭言に係る確認

震災発生及び原稿入稿状況を踏まえ、46-3 号と 46-4 号の巻頭言を入れ替えることとした。

(5) 一般法人化に伴う規定類変更箇所の調査について

細野担当理事と森泉委員を中心として、定款と規定類(編集委員会運営規則、投稿の手引き等)の整合性の確認、問題点の洗い出しをすることとした。

(6) 各パート進捗状況

46-2 号以降の企画記事の進行状況が各パート幹事より報告された。山口委員長より、46-3 号掲載予定の福島特別記事の原稿準備状況が示された。

(7) 46-3, 46-4 号編集進捗状況の確認, 論文審査状況

編集事務局より、上記 2 号の編集状況、論文審査状況が報告され、確認した。

(7) その他

学会誌の構成(記事の配置順等)について、過去号の構成の変遷を整理した上で議論した。目次に若干の修正を加えることとした。

編集委員会会合に TV 会議システムを導入できないか検討した。実現可能性を引き続き調査することとした。

学術論文を充実させるための方法を議論した。次の研究発表会において、座長及び編集委員が積極的に投稿勧誘することとした。テーマを特定した上、締切日を設けて論文を募集する案や、福島事故に関するデータ集の掲載などがあげられた。

インパクトファクター取得のための具体的戦略について、他の学術論文誌の例も参考にしながら今後も議論を継続することとした。

電子ジャーナル(J-STAGE)について、JST 側との連絡窓口および電子版最終確認を杉山委員が担当することとした。

50 周年企画として、これまでの保健物理学会の活動への思いの寄稿を募集し、特集記事とすることとした。三上委員と佐藤委員を担当委員とした。

山口委員長より、学会誌とニュースレター(NL)の棲み分けの見直しについて説明があった。NL 班を現行の企画委員会から編集委員会の下に移行し、若手研のページ及び情報のページを NL に加える案が報告された。編集委員会では、広報委員会を設ける案などを企画委員会に提示することとした。

今回の会合は、平成 23 年 11 月 30 日(水) 13 時 30 分から、東京・大手町で開催されることとなった。

(編集委員会幹事 原子力機構 三枝 純)

広報担当からの報告

「暮らしの放射線 Q&A」の活動について

第 44 回研究発表会の日程に合わせて、10 月 19 日(水)に第 1 回の活動委員会を開催、活発な意見交換を行いました。

メンバーそれぞれ本来業務を抱えながら、質問者に対して誠心誠意お答えしようという熱い思いを持って活動していることをあらためて実感した時間でした。主な議論を紹介します。

1. これからの活動について

福島対応として少なくとも来年3月までは継続で意見一致。それ以降は、福島対応に限定せず窓口の常設化について検討継続が必要。

2. 質問作成に当って

- ・「専門家の常識は市民の常識ではなく、市民の常識を専門家は共有していないこと」に留意が必要。
- ・回答者としての考えを押しつけるのではなく、客観的な事実を提供し、控えめながらも回答者としての考えを述べ、最終的な判断は質問者に委ねるという姿勢が重要。
- ・類似の質問に対して、回答がぶれないよう、また、速やかに回答できるよう有志でまとめた回答集(全質問版、概要版)を全員で共有する。
- ・作業の効率化と回答の整合性確保のため、計算方法(外部、内部被ばく換算係数)や文献を整理し、委員会全体で共有する。
- ・放射線以外の質問など回答が困難な質問(例えば、腎不全を患った方の実効半減期等)については、適任者を探して回答をお願いすることも考慮する。
- ・質問日と回答日を明記する。
- ・類似の質問回答を回避するために、キーワード検索窓(Googleのような検索エンジン)や注目の話題(ホットな話題を紹介)を設け、質問者が事前に類似の質問を探せるような工夫を施す予定。

(日本原子力発電(株) 谷口 和史)

大学等教員協議会

活動報告

石田順一郎大会長のもとに開催されました日本保健物理学会第44回研究発表会の会期中の平成23年10月17日11:50~12:30にホテルレイクビュー水戸 紫峰(C会場)にて、第5回保健物理学会大学等教員協議会を開催しました。本年度、小田啓二先生(神戸大学)が協議会会長、細野 眞が担当理事であることを紹介し、日本保健物理学会の一般社団法人移行に伴う定款をはじめとする規程等の整備の一環として協議会規則について話し合いました。席上、協議会会員の資格としては、必ずしも大学等の教員でなくとも、学会員であって希望されれば入会できることとして、社会人でドクターを志す方なども受け入れることとしました。研究・教育を取り巻く環境が厳しい中、研究活動の活性化と後進の育成を図るため、若い人へのポストの情報提供などの活動をさらに進めることとしました。そのひとつとして学会誌に「保健物理分野の2010年度博士論文・修士論文・卒業論文一覧」(保健物理 46(2),124-127)を掲載しましたが、今後も継続して毎年掲載し、情報交流の一環とすることとした。

(近畿大学高度先端総合医療センター 細野 眞)

若手研究会

活動報告

平成23年10月16日開催された日本保健物理学会50周年・一般法人化記念会に主査と幹事3名で出席しました。この50周年の年に、福島第一発電所事故対応シンポジウムへの若手有志としての参加、『暮らしの放射線Q&A』の対応等、「若手」にたくさんのチャンスを頂き、期待の大きさを感じています。2011年7月31日現在で、若手研究会(以降、若手研)は40名となりました。今後の50年に向け、将来「ピカッと輝く保物家」として活躍できるように精一杯活動したいと感じています。平成23年度若手セミナー、第12回若手勉強会(第5回日本保健物理学会学生発表会)とイベントが続きますので是非ご参加ください。

1. 若手研スケジュール

(1)これまでの活動(平成23年8月以降)

(8/12) 平成23年度第2回主査・幹事会合(東京)

(8/12) 日本保健物理学会福島第一発電所事故対応シンポジウムII(東京)

若手有志により「若手からの提言」を発表

(10/8-10) 千葉市科学フェスタ2011(千葉)

(10/16,19) 平成23年度第3回主査・幹事会(水戸)

(10/17-18) 日本保健物理学会第44回研究発表会(水戸)

(10/19) 第11回若手勉強会・『暮らしの放射線Q&A』活動委員会(水戸)

(2)今後の予定

(12/15) 第12回若手勉強会(第5回日本保健物理学会学生発表会, 12/15-16)(東京)

(12月) 平成23年度若手セミナー

平成24年

(1月) 平成23年度第4回主査・幹事会(京都)

(2月) 第13回若手勉強会

2. 若手研 Now

(1) 日本保健物理学会福島第一発電所事故対応シンポジウムI・II (若手研幹事 原子力機構 河野恭彦)

福島第一発電所事故対応シンポジウムI-原子力防災対策とその基準(平成23年6月16日, 東京大学)において, 「若手, 学生より, アンケート結果等を含めて」と題して, 若手・学生有志を代表して幹事の荻野により, 1)福島県における校庭等の利用判断基準, 2)集団線量に基づく将来がん死者数予測の問題, 3)除染スクリーニングレベル, 4)緊急作業従事者の線量限度, 5)作業者及び公衆の内部被ばくの問題, 6)社会における様々な不安の解消, について, これまでの課題と今後の教訓を報告した。また, 福島第一発電所事故対応シンポジウムII-公衆の被ばくに焦点を当てて(平成23年8月12日, 東京大学)のセッション「首都圏の汚染状況と市民生活への影響」においては, 「福島第一原子力発電所事故における内部被ばく管理に対する若手からの提言」と題して, 若手・学生有志を代表して幹事の河野により, 東電福島第一原子力発電所事故における内部被ばくに焦点を当てて, 1)甲状腺のスクリーニングレベル, 2)ホールボディカウンタ, 3)バイオアッセイといった重要なテーマを抽出し, それぞれのこれまでの対応経緯と課題, そして若手の提言について報告した。シンポジウムの会場からは, 我々若手有志の発表に対する活発な質問やアドバイスもあり, 会場内で有意義な議論を行うことができた。なお, 本シンポジウムの詳しい内容については, 保健物理学会誌46-3号の話題をご覧ください。

最後に本シンポジウムI・IIに若手・学生有志として参加させていただくにあたり, 小佐古敏荘学会長, 百瀬琢磨企画委員長, 伴信彦副企画委員長, 中田陽企画委員会幹事をはじめ, 日本保健物理学会の関係者の方々に多大なるご理解とご協力をいただいた。この場をおかりして, 心より関係者の皆様に感謝申し上げます。



写真1-1: 福島第一発電所事故対応シンポジウムIの様子 写真1-2: 福島第一発電所事故対応シンポジウムIの様子

(2) 千葉県科学フェスタ2011への参加報告(若手研主査 明治大学 小池裕也)

「これからの私たち~our future~」をメインテーマに, 千葉県では市民の皆さんが, 日常生活の中で科学・技術を身近に感じることができる, 総合的な科学の祭典として科学フェスタを開催しています。2011年のテーマは「現在(今)のあなたから, 未来のあなたへ」とのことで, 昨年に引き続き, 若手研では東日本大震災による福島第一原子力発電所事故に関連して現在の状況から参加者と共に私たちの未来について考えることができる企画を展示ブースで実施しました。

千葉県科学フェスタ2011でのブース出展は, 平成23年10月8日から10日の3日間で行われました。ブースでは, 幅広い年齢層の一般市民を対象に, 1)身体除染, 2)一般消費財中の放射線計測, 3)放射線に関するクイズを通じて, 放射線に関する正しい知識を来場者と共に学ぶことのできる企画を行いました。当日は若手研と学友会とが協力して対応を行いました。大勢の参加者がブースに立ち寄り大盛況でした。詳細な報告については, 保健物理学会誌46号をご参照ください。



写真 2-1: 出展ブースの様子
(平成 23 年 10 月 10 日)



写真 2-2: 千葉市科学フェスタの参加者集合写真
(平成 23 年 10 月 9 日)

(3) 『暮らしの放射線 Q&A』中間報告 (若手研幹事 原子力機構 河野恭彦)

「専門家が答える暮らしの放射線 Q&A サイト」(URL: <http://radi-info.com/>)を、40 名からなる『暮らしの放射線 Q&A』活動委員会により運営されることになった。若手研究会関連からは 21 名、学友会から 7 名が『暮らしの放射線 Q&A』活動委員として協力し、投稿者より質問を受けた時点での状況に基づいて、各自が有する知見から判断して回答を行っている。活動委員会の体制を図 3-1 に示す。

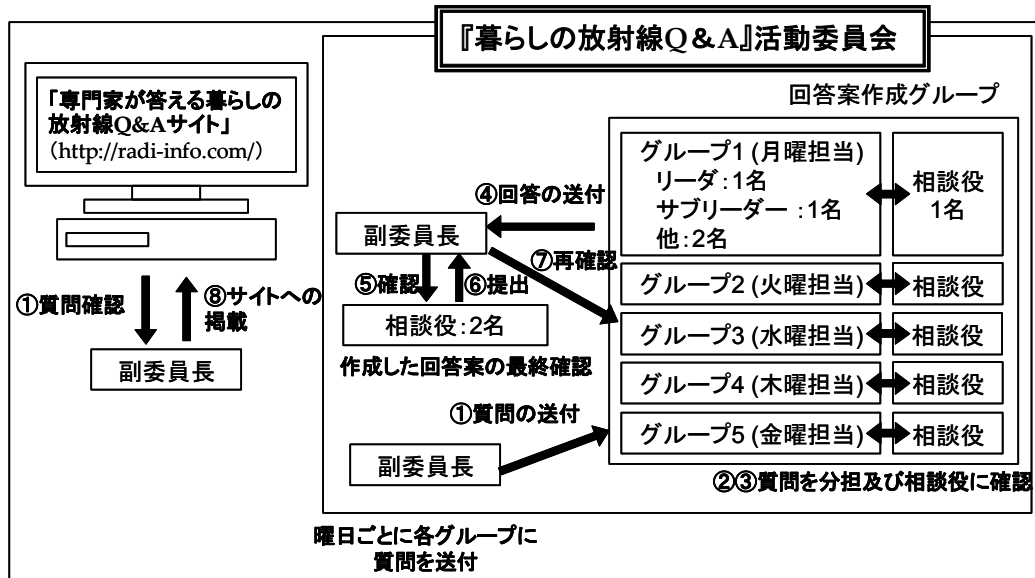


図 1-1: 『暮らしの放射線 Q&A』活動委員会の体制図

「暮らしの放射線 Q&A 対応手順書(7 月 15 日施行)」を制定し、対応名簿やメーリングリストを整備した。各委員は手順書に従い順次対応している状況である。実際の対応手順を以下に簡単に示す。

- (i) 副委員長より、各曜日の質問が、各グループリーダー及びサブリーダーに送付される。
- (ii) 各グループリーダー又はサブリーダーは、各曜日の質問をグループの委員に割り振る。
- (iii) 各グループリーダー又はサブリーダーは、委員の回答案の内容を取りまとめ、各グループの相談役の先生に確認する。
- (iv) 各グループの相談役の先生の確認後、各グループリーダー又はサブリーダーは回答案を取りまとめ、必ず副委員長へ提出する。
- (v) 副委員長は、下先生及び早川先生へ回答案の確認を依頼する。
- (vi) 下先生、早川先生は最終的な回答案の確認を行い、コメントを加えた回答を副委員長へ提出する。
- (vii) 副委員長は下先生、早川先生のコメントを踏まえて回答を修正し、各グループリーダー又はサブリーダーに修正後の回答を送付して確認を仰ぐ。

-
- (viii) 各グループリーダー又はサブリーダーの確認が得られ次第、副委員長はホームページ及びツイッターへの掲載を行う。

上記の手順で順調に進行していますので、一度サイトを是非ご閲覧ください。「専門家が答える暮らしの放射線 Q&A」サイトは、日本保健物理学会の会員を中心とした有志により運営されています。ご協力いただける場合、またはご質問等ありましたら、専門家が答える暮らしの放射線 Q & A 活動委員会事務局(E-mail:secretary@jhps-radi-info.sakura.ne.jp)までご連絡ください。

3. 若手研掲示板

- (1) 若手研では会員を随時募集しております。現在の会員は 40 名(平成 23 年 7 月 31 日)です。35 歳以下の学会員であれば、どなたでも入会資格がありますので、主査・幹事まで(E-mail:jhps.wakate@gmail.com)お気軽にご連絡下さい。(Y.K.)
- (2) 「専門家が答える暮らしの放射線 Q&A」サイト(URL:<http://radi-info.com/>)で東京電力(株)の福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質による放射線影響等に関し、不安や疑問に Q&A 方式でお答えしています。お時間があるときにぜひご覧下さい！また本活動にご協力していただける方についても、いつでも募集しております。(T.K.)
- (3) 第 5 回学生発表会が平成 23 年 12 月 15 日と 16 日に開催されます。若手セッションの中で第 12 会若手勉強会を企画しています。学友会の活動を応援していきたいと思っておりますので、万障お繰り合わせの上、ご参加ください。(Y.K.)
- (4) 「NEWSLETTER」への記事及び情報提供もよろしくお願いいたします。(Y.K.)

(若手研究会主査 明治大学 小池 裕也)

学友会

活動報告

1. 千葉県科学フェスタへの参加報告

2011 年 10 月 8~10 日に、千葉県千葉市「Qi Ball」にて行われた千葉県科学フェスタ 2011・メインイベントに、若手研究会・学友会合同でブースを出展しました。ブースでは小学生を含めた幅広い年齢層の一般市民を対象に、サーベイメータを用いた放射線計測の実演、身体除染の体験、放射線に関するクイズを実施しました。来場者は親子連れの方が多く、実際に測定器を使って自然放射線の存在や遮へいの効果について実感していただくことで、普段感じている不安を取り除くことができましたと思います。ブースは終日大盛況で、放射線に対する正しい知識を多くの方に伝えることができました。

2. 第 5 回日本保健物理学会学生発表会のお知らせ

2011 年 12 月 15, 16 日に、首都大学東京・荒川キャンパス・大視聴覚室にて第 5 回日本保健物理学会学生発表会を実施します。今年も、学生の研究発表だけではなく、企業プレゼンテーションや若手会との共同セッションなどを予定しています。また、サテライト討論会および施設見学会も企画中です。

今後も学友会では活動を活発に行い、親睦を深めるとともに保健物理の発展に貢献していきたいと考えています。

(東京大 新谷 俊幸)

専門研究会報告

今年度の専門研究会について

平成 23 年度-24 年度の専門研究会の募集につきましては、昨年度 2 月で締め切りましたが、設置数に空きがありますので継続して募集をいたします。募集は、以下の要領で行いますので、設置を希望される会員の方は、専門研究会運営細則(下記の参考)をお読みの上、A4 判で下記の必要事項を記入したファイルを添付し企画委員会まで応募ください。問合せ先・応募先：中田 陽(nakada.akira@jaea.go.jp)

1. 専門研究会の名称
2. 提案者名(複数でも可)と連絡先
3. 提案理由(1,000 字以内)
4. 計画の概要
5. 予算
6. 予定される研究会員名(主査候補者を含む)

7. 設置予定期間(1期は2年間です。)

なお、現在の専門研究会は以下のとおりです。平成23年度継続の専門研究会が1件ありますので、専門研究会運営細則第2条5項「同一時期における専門研究会の設置数は、原則として5件以内とする。」により次期専門研究会の採用予定数は原則として4件です。専門研究会では年間20万円を限度として学会から活動資金の援助が受けられます。

<平成23年度継続>

放射線安全パラダイム検討のための基盤整備専門研究会

<参考>

専門研究会運営細則

http://wwwsoc.nii.ac.jp/jhps/j/outline/rules/rules_pdf/rule_002.pdf

現在活動中の専門研究会

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jhps/j/groups/activities.html>

(原子力機構 百瀬 琢磨)

放射線安全パラダイム検討のための基盤整備専門研究会

本専門研究会は、第44回研究発表会において17日(月)16:50から1時間のセッションを開催した。

小佐古主査(東京大学)が座長を務め、最初に「放射線安全の新しいパラダイム検討専門研究会報告書(平成22年7月)」の内容について服部委員(電力中央研究所)が講演をした。続いて、岩井様(日本原子力技術協会)から「放射性物質と化学物質等の健康リスクとの比較の一例」について報告して頂いた。

その後のパネルディスカッションでは、リスクマネジメントシステムをどう動かしていくか。害をどういう風に表現していけば良いか。放射線の生物影響のメカニズムについてや、国際的な基準と国内基準をどういう風に考えるか。を中心に議論し、正しい科学知見に基づく健全な防護体系を構築することにつながると考えられる様々な意見が出された。

なお、「放射線安全の新しいパラダイム検討専門研究会報告書」は、日本保健物理学会HPの定期刊行物・日本保健物理学会専門研究会報告書シリーズに掲載されておりますので、ぜひご覧になってください。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jhps/j/issn-report/report2010-2.pdf>

(埼玉医科大 飯塚 裕幸)

学会掲示板

福島第一発電所事故対応シンポジウムⅡ-公衆の被ばくに焦点を当ててに参加して

平成23年8月12日に東京大学本郷キャンパスにおいて福島第一発電所事故対応シンポジウムⅡが開催された。6月に本シンポジウムの第一回目が開催され、原子力防災対策とその基準について議論されている。第二回目となる今回は、公衆の被ばくに焦点が当てられた。プログラムには1)基調講演、2)周辺住民の被ばく、3)首都圏の汚染状況と市民生活への影響の3つのセッションが用意されており、最後に総合討論を行った。

1. 基調講演

基調講演は、元原子力委員会委員長代理の田中俊一氏から「福島原子力発電所事故の展望」について行われた。はじめに、福島第一原子力発電所事故の概要と見通しについて解説した後、校庭、プール、屋根、雨樋、屋敷裏、ビニールハウス、牧草地、水田などの様々な場所について具体的な汚染状況と除染効果を示し、適切な除染の必要性を明らかにした。後半では、除染後の廃棄物処分について、緊急時である現実に即した対応が必要であることを述べ、管理型集積処分場のイメージを示すとともに、放射線防護に関わる基準・考え方の再検討を保健物理学会に求めた。

2. 周辺住民の被ばく

本セッションでは、原子力機構の斎藤公明氏から「周辺地域の汚染状況に関する詳細調査」、放医研の立崎英夫氏から「一時立ち入りの現状から」についてそれぞれ講演された。前者の講演では、平成23年度科学技術戦略推進費により実施している「放射性物質による環境影響の対策基盤の確立」プロジェクトの概要について報告された。本プロジェクトでは、福島原発サイトから100km圏内における土壌採取・測定、空間線量率測定および走行サーベイを実施しており、将来的に広く公開できるようにシステムの整備を進めている。後者の講演では、警戒区域に設定されている20km圏内への一時立ち入りの現状について紹介された。安全確保策として、人数制限、集団行動、防護衣着用、線量計・トランシーバーの携帯、在宅時間の制限などの他、帰着時のスクリーニングや安定ヨウ素剤の配備も実施されている。今後は、住民の要求・希望と放射線管理や健康管理とのバランスに注意する必要がある。

3. 首都圏の汚染状況と市民生活への影響

本セッションでは、東大の飯本武志氏から「首都圏の汚染状況」、放医研の杉浦紳之氏から「災害廃棄物・汚泥の処理処分」、藤田保健衛生大の下道國氏から「公衆の不安・疑問-学会 Q&A サイトの分析から」、原子力機構の河野恭彦氏から「若手からの提言」について講演された。これらの講演から、1)環境計測調査は継続性が重要であること、2)意思決定には適切な利害関係者の関与が必要であること、3)その決定プロセスを透明化すること、4)一般公衆の不安・疑問に回答するにあたり正当化・最適化・参考レベルに着目すること、5)現存被ばく状況における汚染物の利用を包括的に定めたガイドラインを制定すること、6)一般公衆に対する内部被ばく管理手法を標準化することなどが提言された。

総合討論では、放医研の保田浩志氏により、政府の原子力災害対策に係る体制、事故初期の対応、今回の事故の教訓について触れられ、専門家を含む関係者が最新の正確な情報を共有しながら適切な対応に努める重要性について示された。

(東京大学 谷 幸太郎)

インターネットグループの活動

インターネットグループ(IG)は、保健物理学会企画委員会の傘下で、学会ホームページの管理およびニュースレターの発行に関する活動を行っています。現在、活動しているメンバーは次のとおりです。

現在、活動しているメンバーは次のとおりです。

- ・ 主査 : 山崎 直(中部電力)
- ・ ホームページ保守: 中野 政尚, 吉富 寛, 中川 貴博, 大倉 毅史(原子力機構)
- ・ ニュースレター編集: 鈴木 敦雄(静岡県), 平尾 茂一(名古屋大)

IG 活動へ興味を持たれた方(協力していただける方)、学会ホームページ等活動内容への改善案をお持ちの方は、気軽に学会公式アドレス(jhps@wwwsoc.nii.ac.jp)へメールしてください。

(IG 主査 山崎 直)

発行: 一般社団法人日本保健物理学会

編集: 企画委員会インターネットグループ

担当: 鈴木 敦雄(静岡県), 平尾 茂一(名古屋大)